

2021 年度
岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業及び
高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業
報 告 書

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター

岩手県高次脳機能障害支援拠点機関

目 次

ご挨拶

I	事業概要	1
II	事業実施報告	4
1	事業報告書	4
2	相談支援状況	7
3	精算書	13
4	会議・研修会・イベント実績	15
5	当事者向け自主トレーニングプログラム	20
6	しずくいしの風～高次脳機能障がいメールニュース～	33
7	ホームページ更新	39
III	岩手県内の支援拠点機関一覧	43

ご挨拶

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター

理事長 大井 清文

初めに、岩手県の委託事業である高次脳機能障がい支援普及事業においては、多くの方々のご協力によりなされてきたものであり、患者さんやご家族、患者さんの会、各関係機関および岩手県のご支援に厚く御礼を申し上げます。

さて、令和 3 年度の事業についてご報告させていただきますが、新型コロナウイルス感染症およびその拡大により、今年度もズームやハイブリッド形式による会議の開催や動画配信など、様々な手段を用いながら昨年度と同様、本事業を継続して参りました。

一方、昨年度もご報告させていただきました、当事者・家族の思いを 50 音にのせた「高次脳機能障がいカルタ」については、この障がいについての理解を深めていただくため無料配布を行っておりますが、県内の新聞等にも取り上げられ多数の注文があり好評でございました。このコロナ禍において、不要不急の外出自粛要請により自宅で過ごす時間が増えた方もおられたのではないかと思いますので、ご活用いただけましたら幸いと存じます。また今後、国の許可をいただけましたら、その著作権をイーハトーブに譲渡することで検討を進めているところでございます。

最後になりますが、今後とも皆様のご協力・ご指導を賜りながら、高次脳機能障がい者ならびにご家族が住み慣れた地域で、安全にかつ安心して暮らしていけるよう、より一層尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

I 事業概要

高次脳機能障がいへの支援の取組みについて

I 本県における現状と課題

<障がいの概要>

脳の器質的病変の原因となる交通事故による受傷や脳卒中等の疾病により発生する、記憶障がい、注意障がい、遂行機能障がい及び社会的行動障がい。

<対象者数>

高次脳機能障がい者数（推計）

県全体 2,751人（地区内訳 盛岡 1,028人、県南 1,054人、沿岸 421人、県北 248人）

※ 国立障害者リハビリテーションセンターがモデル事業実施時に調査した全国の高次脳機能障がい者数の人口比率を岩手の人口比率に換算して算定したものである。

全国の人口	:	全国の高次脳機能障がい者数	=	県人口 * (A)	:	県内の高次脳機能障がい者数 (B)
128,000,000人	:	274,000人	=	1,284,732人	:	2,751人

* 県人口は、岩手県毎月人口（平成26年9月1日現在）

*（参考）比率：0.00214【B/A】

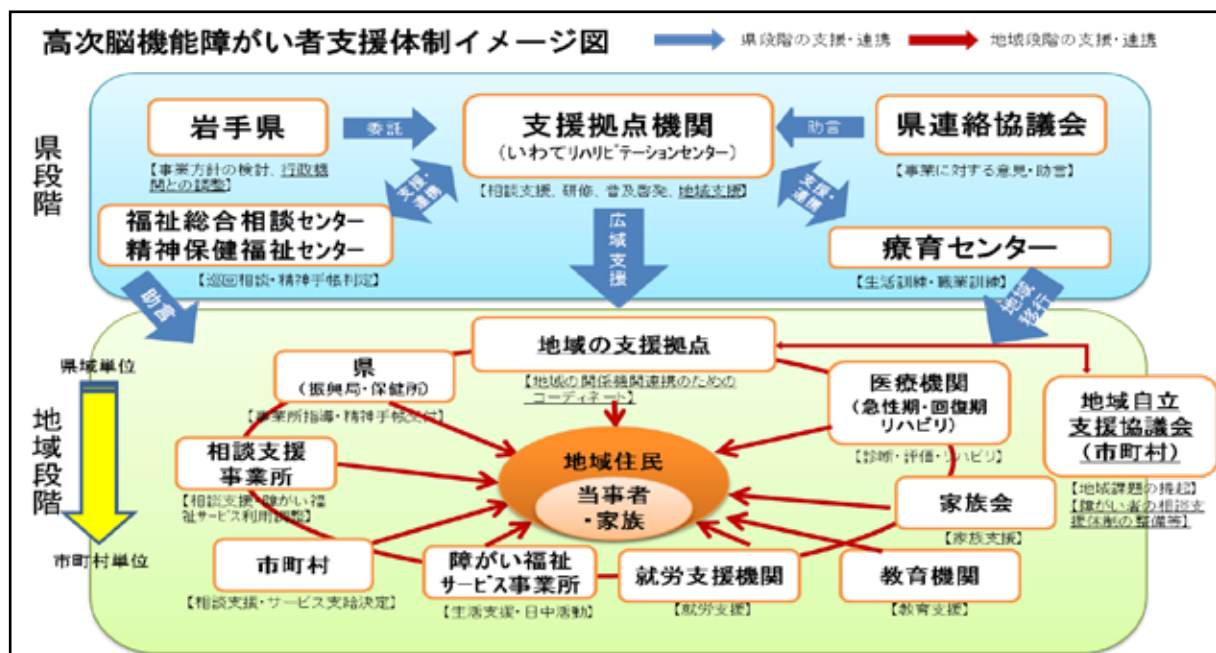
高次脳機能障がい者は、日常生活や社会生活に制約があると診断されれば「器質性精神障害」として、精神障害者保健福祉手帳の申請対象となり、また発症（受傷）が18歳未満で、知的障害と判定された場合に、療育手帳の申請対象となっている。

県内の関係機関で支援を行った高次脳機能障がい者の数が増加している一方、まだ支援実績がない関係機関もあり、関係者の高次脳機能障がいに対する知識や経験が不足している。

また、県民の高次脳機能障がいに関する理解が不足している状況にある。

II 課題への対応（主な取組）

県では、相談支援ネットワークの構築や人材育成、活動交流の場の確保など、高次脳機能障がい者が、孤立せず安心して暮らせる地域づくりに向けて取組を進めている。



1 県の支援拠点機関の設置（いわてリハビリテーションセンター） 平成19年度～

相談支援コーディネーターを配置し、専門的な相談支援、関係機関との連携、調整を行う。
また、普及啓発活動の他、支援者を対象とした研修の実施や地域支援拠点への訪問等、地域での高次脳機能障がい者への取組を支援する。

【主な取組内容】

(1) 高次脳機能障がい者支援普及事業の実施

① 相談支援の実施

支援拠点機関において、相談支援コーディネーターを配置し、専門的な相談支援及び地域の関係機関との調整を行う。

② 普及啓発活動及び研修の実施

- ・正しい理解の促進のためのHP、パンフレット等による普及啓発や相談窓口の周知。
- ・自治体職員、保健・福祉・医療関係者等を対象とする研修会を開催し、高次脳機能障がいの評価・診断・手法等に関する研修及び普及啓発を実施。
- ・各種会議、研修を通じて行政担当者、相談支援従事者等の連携を推進する。

③ 県連絡協議会の設置・運営

連絡協議会委員による事業全体の検討及び評価を実施する。

令和3年8月5日（木） 15：00～16：30 Web形式

令和4年3月29日（火） 15：00～16：30 Web形式

(2) 高次脳機能障がい者支援体制整備事業（地域支援）の実施

① 地域支援コーディネーターの配置

地域支援を行うため、支援拠点機関に地域支援コーディネーターを配置する。

② 地域の支援拠点等への訪問支援等

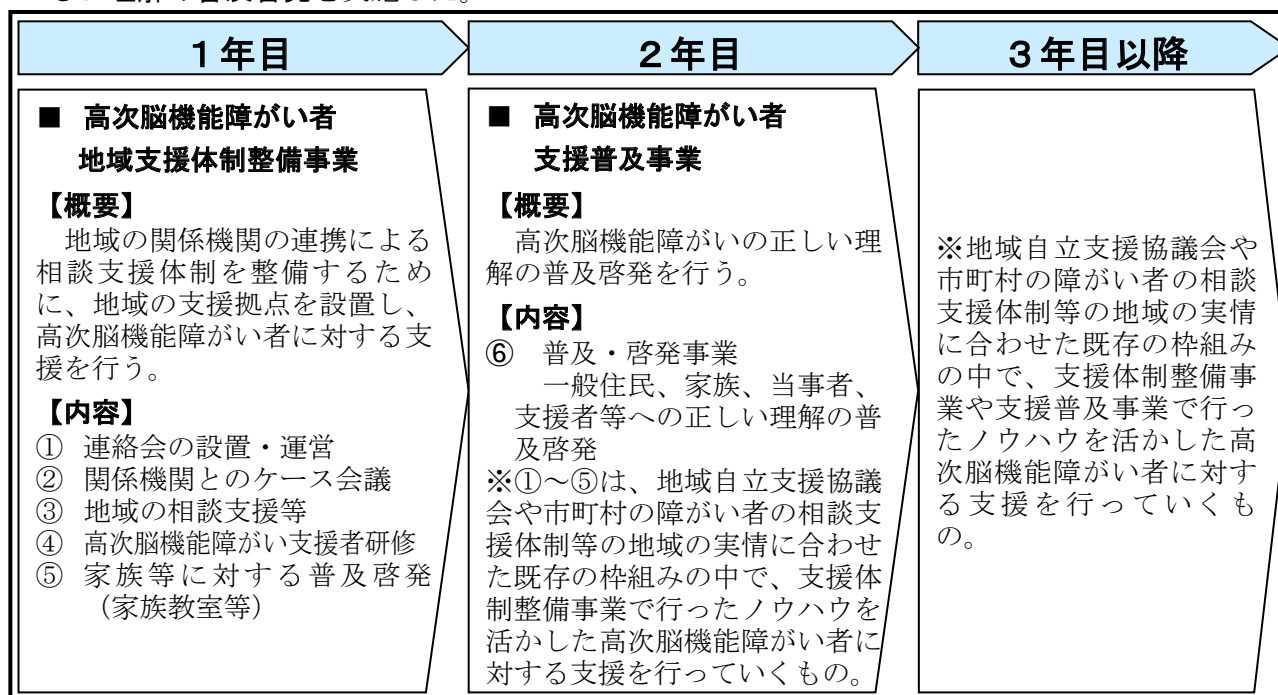
地域の支援拠点等が実施する相談支援やケース会議等への助言や研修の企画支援等を訪問支援等により実施し、相談支援ネットワークの強化を図る。

③ 地域の支援拠点の支援者等育成研修

圏域相談支援コーディネーター研修会 令和3年10月27日（水） Web形式

2 地域の支援拠点の設置（平成27年度～令和元年度）

身近な地域で、受傷・発症から社会復帰まで切れ目なく相談・支援を行うことができるよう、平成27年度から令和元年度までの期間において、県の委託事業により、順次、障がい保健福祉圏域ごとに地域支援拠点を設置し、相談支援体制を整備するとともに、高次脳機能障がいの正しい理解の普及啓発を実施した。



【実績】

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
気仙圏域 宮古圏域	体制整備事業	支援普及事業			
久慈圏域 二戸圏域		体制整備事業	支援普及事業		
胆江圏域 釜石圏域			体制整備事業	支援普及事業	
盛岡圏域 中部圏域				体制整備事業	支援普及事業

年度	圏域	委託先	地域の支援拠点
27	気仙	社会福祉法人大洋会	地域活動支援センター星雲 相談室
	宮古	NPO 法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット	相談支援事業所れいんぼー
28	久慈	社団医療法人祐和会	地域生活支援センター久慈
	二戸	社会福祉法人カシオペア障連	地域生活支援センター・カシオペア
29	釜石	釜石大槌地域障がい者自立支援協議会	地域活動支援センター釜石
	胆江	奥州市	愛護会障害者相談支援センター
30		社会福祉法人フレンドシップいわて	指定相談支援事業所サポートにじ
30	盛岡	NPO 法人いわて脳外傷友の会イーハトーヴ	いわて脳外傷友の会イーハトーヴ
	中部	NPO 法人いわて脳外傷友の会イーハトーヴ	いわて脳外傷友の会イーハトーヴ県南地区

※ 両磐圏域については、圏域内の市町や関係機関と協議を重ねた結果、県の委託による事業は実施せず、既存の相談支援体制により対応されることとなったため、委託先及び地域の支援拠点はありません。

II 事業実施報告

1 事業報告書

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業

岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業「県の支援拠点機関による地域支援」

令和3年度事業報告書

1 令和3年度の重点事項

- (1) 地域の実情に合わせて、高次脳機能障がい者の受け入れの拡大を図る。
- (2) 地域の支援ネットワークの構築に向けて、関係機関の調整を図る。

2 支援ネットワーク構築のための連絡協議会の開催

- (1) 高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会
 - ① 第1回 令和3年8月5日 Web（出席者22名）
 - ② 第2回 令和4年3月29日 Web（出席者19名）
- (2) 圏域相談支援コーディネーター会議
令和3年10月27日 Web（出席者14名）

3 事業運営のための会議の開催

- (1) 高次脳機能障がい者支援担当者会議 12回開催
- (2) 高次脳機能障がい者カンファレンス 12回開催
- (3) 相談支援コーディネーター会議 毎月第一木曜日開催

4 専門的な相談支援体制の整備

相談支援コーディネーター3名（MSW2名、心理士1名）を配置し、専門的な相談支援及び関係機関との連絡調整を行った。

- (1) 当事者及び家族の相談支援 のべ923件（4/1～3/31まで）【参考】R2同期間のべ944件

相談及び対応の方法	件数	【参考】R2	比較増減
電話	167件	181件	-14
来院／来所	739件	724件	+15
メール・書簡	12件	25件	-13
その他（訪問・同行等）	5件	14件	-9

- (2) 機関及び施設等の相談支援 のべ227件（4/1～3/31まで）【参考】R2同期間のべ226件

相談及び対応の方法	件数	【参考】R2	比較増減
電話	147件	169件	-22
来院／来所	17件	22件	-5
メール・書簡	62件	33件	+29
その他（訪問・同行等）	1件	2件	-1

5 支援の普及に向けた研修会の開催

- (1) 高次脳機能障がい圏域コーディネーター研修会（圏域のコーディネーター対象）
令和3年10月27日 オンライン開催（参加者13名）
- (2) 高次脳機能障がい支援研修会（医師及びコメディカル対象）
令和4年3月10日、3月12日 オンラインで動画配信（合計51アクセス）うち医師14名
- (3) 高次脳機能障がい支援研修会（地域の支援者対象）
令和4年3月17日、3月19日 オンラインで動画配信（合計56アクセス）

(4) フォーラム（県民対象）

令和3年10月2日アイーナにて開催予定のいわてリハビリテーションフォーラムにて、高次脳機能障がい資料展示及びトートバッグの配布を行うこととしていたが、新型コロナウイルスの感染拡大によりフォーラムが中止となった。

6 地域における支援体制整備のための支援

(1) 宮古圏域：地域支援拠点機関のレインボーネットと協働して地域支援体制の整備を図った。

① 連絡協議会

・令和3年12月6日 第1回連絡協議会（職員1名派遣）

(2) 気仙圏域：地域支援拠点機関の星雲相談室と協働して地域支援体制の整備を図った。

① 連絡協議会

・令和3年12月2日 第1回連絡協議会（職員1名派遣）

(3) 二戸圏域：地域生活支援センター・カシオペアと協働して地域支援体制の整備を図った。

① 家族交流会

・令和3年7月10日 第1回家族交流会（職員1名派遣）

(4) 盛岡圏域：いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴと協働して地域支援体制の整備を図った。

① 連絡協議会

・令和4年2月7日 第1回連絡協議会（オンライン開催 職員1名派遣）

(5) 中部圏域：いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴと協働して地域支援体制の整備を図った。

① 連絡協議会

・令和4年2月3日 第1回連絡協議会（オンライン開催 職員1名派遣）

7 事業周知のためのPR・広報活動の実施

(1) 当センターホームページにて、県内の研修情報を掲載した。

(2) メールニュースを配信し、高次脳機能障がいに対する理解と支援の拡大を図った。

(3) 会議や研修会、メディアを通じて高次脳機能障がいカルタのPRを行った。カルタの無料配布を開始し、ホームページに申し込みフォームを作成した。申し込みに応じてカルタを郵送した。

8 当事者・家族を中心とした普及啓発事業の実施

「ピアカウンセラーから見た高次脳機能障がい者への支援のポイント」の冊子を作る予定で、ピアカウンセラーへのインタビューを行う予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、インタビューの実施が困難と判断した。

代わりに、昨年度作成した「100円グッズを使って家庭で出来る！脳と身体を鍛える自主トレプログラム」の追加動画を作成し、既存のプログラムを初級・中級・上級と難易度を分け、段階的にトレーニングができるようにした。自宅で動画を見ながら1人でも実施できるような工夫を行った。

9 全国・東北ブロック組織及び県内関係機関との連携・協力

(1) 会議及び研修会等での連携

会議名・研修会名等	期日	場所・方法	出席者等
高次脳機能障害全国連絡協議会 第1回	6/23	Web	5名（県庁・リハセン担当者）
第2回	2/25	Web	2名（県庁・リハセン担当者）
高次脳機能障害東北ブロック会議		書面開催	
奥州市民生委員研修	11/10	奥州市	講師として職員1名派遣
雫石町民生委員研修	10/29	雫石町	講師として職員1名派遣

いわて脳損傷リハビリテーション講習会			
第1回	1/15	Web	実行委員として職員1名対応
第2回	1/18	Web	実行委員として職員1名対応

(2) 機関としての連携

- ①いわて高次脳機能障害友の会「イーハトーヴ」
 - ・研修会及び講習会の開催、地域支援拠点機関の支援について連携協力を行った。
- ②岩手県立療育センター
 - ・共通して支援を行ったケースについて情報交換を行った。
- ③岩手障害者職業センター
 - ・高次脳機能障がいケース支援を協働で行った。

10 コーディネーターのスキルアップのための研修派遣

- (1) 高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議
 - 第1回 令和3年6月23日 Web開催（職員2名参加）
 - 第2回 令和4年2月25日 Web開催（職員1名参加）
- (2) 高次脳機能障サポーター養成講座（ハイブリッド形式）
 - 令和3年10月～12月 計4回 Web開催（職員2名参加）
- (3) 日本高次脳機能障害友の会 2021年オンライン全国大会
 - 令和3年10月2日 Web開催（職員1名参加）
- (4) リハビリテーション心理職研修会
 - 令和3年10月18日～20日 Web開催（職員1名参加）
- (5) 援助職のための記録の研修 上級編
 - 令和3年4月～令和4年3月 計12回 Web開催（職員1名参加）
- (6) 高次脳機能障害実践的アプローチ講習会
 - 令和3年11月～令和4年1月 計2回 Web開催（職員2名参加）
- (7) 小児高次脳機能障害支援者向け研修会
 - 令和4年2月 Web開催（職員1名参加）

2 相談支援状況

いわてリハビリテーションセンター
高次脳機能障害支援状況（令和3年度）

	新規	継続	主治医		方法								カンファレンス	合計	備考
					面談		電話		訪問		文書				
			当院	他院	直接	間接	直接	間接	直接	間接	直接	間接			
4月	6	95	88	13	69	1	15	13	2	0	1	0	0	101	
5月	5	71	61	14	50	2	14	14	0	0	0	0	1	81	
6月	5	87	87	5	75	0	7	11	0	0	0	0	0	93	
7月	1	85	72	14	56	1	16	6	0	0	7	0	2	88	
8月	3	87	73	17	59	0	22	9	1	0	0	3	0	94	
9月	3	103	81	25	69	1	12	13	0	0	0	8	3	106	
10月	3	96	79	20	64	2	7	22	0	0	0	5	3	103	
11月	1	102	83	22	66	4	18	5	0	0	3	6	3	105	
12月	4	99	85	17	62	4	11	7	1	1	1	13	2	102	
1月	2	84	73	13	56	0	9	16	1	0	0	7	1	90	
2月	6	103	78	33	59	2	23	19	0	0	0	7	3	113	
3月	1	91	69	26	54	0	13	12	0	0	0	13	3	95	
合計	40	1103	929	219	739	17	167	147	5	1	12	62	21	1171	

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
外来受診	1	0	1	1	0	1	3	4	1	1	7	0	20	
入院検査	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	
診断/評価	10	2	11	2	6	11	4	7	12	10	14	12	101	
医療/生活	6	1	0	3	1	0	4	3	0	4	5	2	29	
交通事故関係	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
障害者手帳関係	1	6	4	0	1	0	1	1	2	1	2	5	24	
福祉サービス利用	6	8	10	4	6	14	7	11	9	5	4	1	85	
年金/社会保障制度	7	7	5	3	1	1	1	9	4	3	3	5	49	
日常生活	23	19	31	31	33	43	26	34	34	27	15	12	328	
家族/対人関係	1	1	1	1	7	3	2	1	1	0	0	0	18	
復学/教育	2	1	7	2	5	5	11	6	12	4	1	7	63	
復職/就業	42	32	34	40	33	39	54	37	46	46	55	42	500	
職業訓練/評価	3	0	0	2	2	0	0	0	1	3	1	0	12	
自動車運転関係	23	20	17	14	27	17	15	6	6	13	30	18	206	
障害理解/対応	5	4	8	12	10	3	8	12	8	6	10	9	95	
家族会関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	2	0	1	1	4	2	1	0	2	5	5	1	24	

令和3年度 高次脳機能障がい者支援普及事業相談支援状況報告書

いわてリハビリテーションセンター

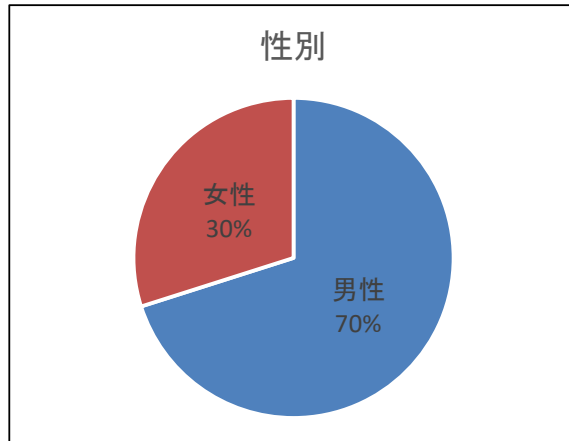
【相談支援の概要】

- 1 相談件数 延べ1,171件 (4/1~3/31) 実人数107人
※令和2年度同期間実績:1,170件(実人数102名)

2 相談対象者の属性

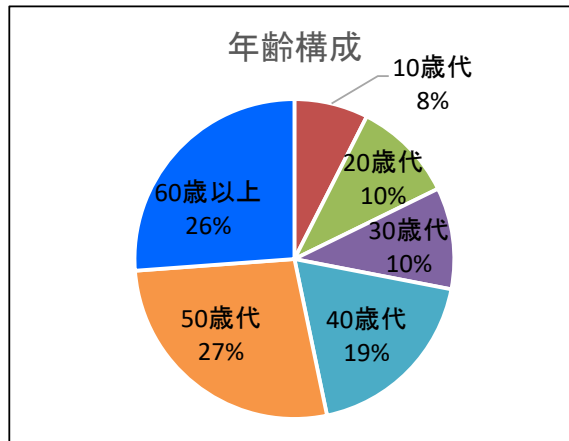
(1) 性別

男性：75名 (70%)
女性：32名 (30%)



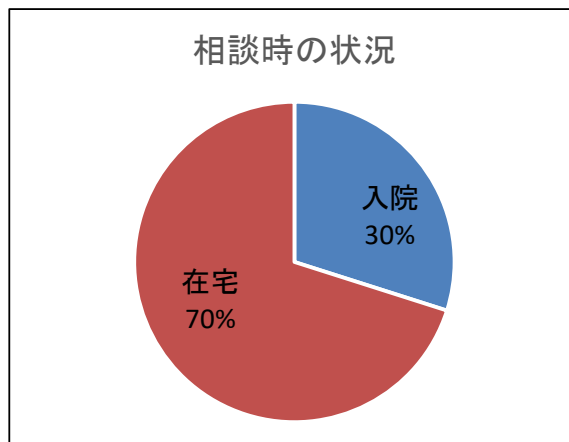
(2) 年齢構成

10歳未満：0名 (0%)
10歳代：8名 (8%)
20歳代：11名 (10%)
30歳代：11名 (10%)
40歳代：20名 (19%)
50歳代：29名 (27%)
60歳以上：28名 (26%)



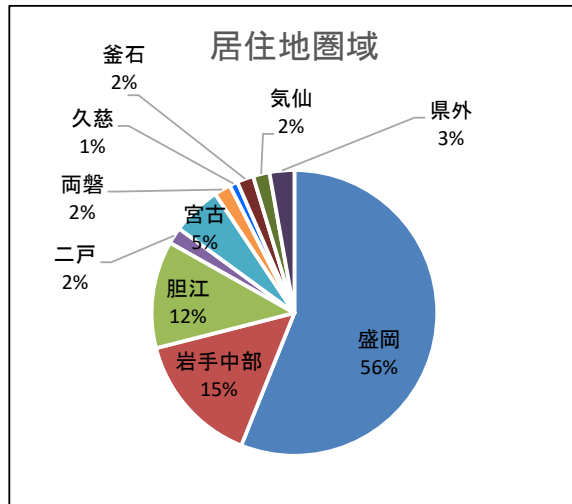
(3) 相談時の状況

入院中：32名 (30%)
在宅：75名 (70%)



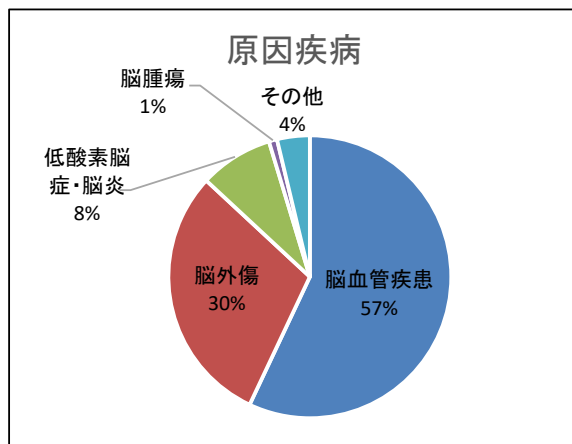
(4) 居住地圏域

盛岡	: 60名 (56%)
岩手中部	: 16名 (15%)
胆江	: 13名 (12%)
二戸	: 2名 (2%)
宮古	: 6名 (5%)
両磐	: 2名 (2%)
久慈	: 1名 (1%)
釜石	: 2名 (2%)
気仙	: 2名 (2%)
県外	: 3名 (3%)



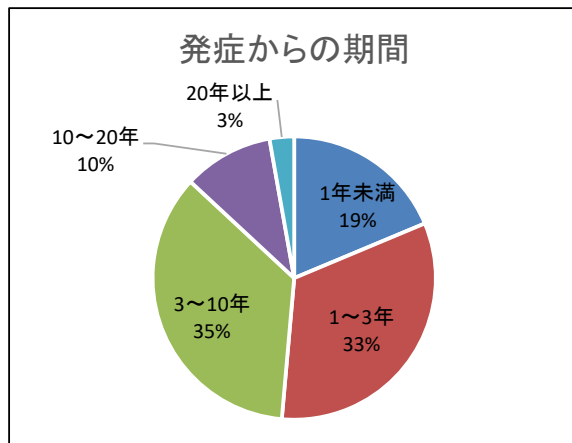
(5) 原因傷病

脳血管疾患	: 61名 (57%)
脳外傷	: 32名 (30%)
低酸素脳症	
・脳炎	: 9名 (8%)
脳腫瘍	: 1名 (1%)
その他	: 4名 (4%)



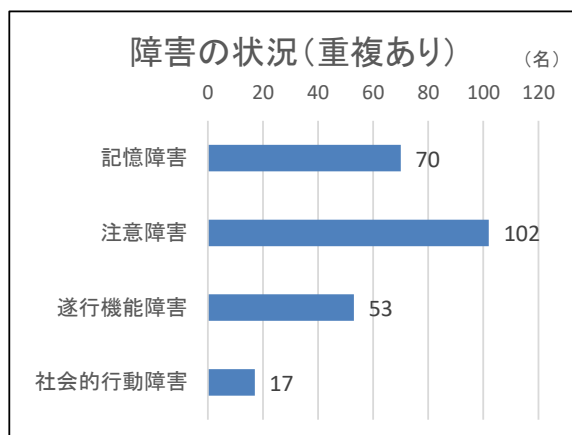
(6) 発症からの期間

1年未満	: 20名 (19%)
1～3年	: 35名 (35%)
3～10年	: 38名 (35%)
10～20年	: 11名 (10%)
20年以上	: 3名 (3%)



(7) 障害の状況 (重複あり)

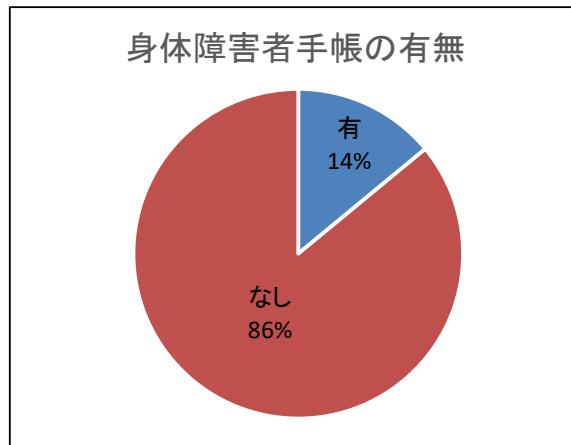
記憶障害	: 70名
注意障害	: 102名
遂行機能障害	: 53名
社会的行動障害	: 17名



(8) 身体障害者手帳の有無

有 : 15名 (14%)

なし : 92名 (86%)



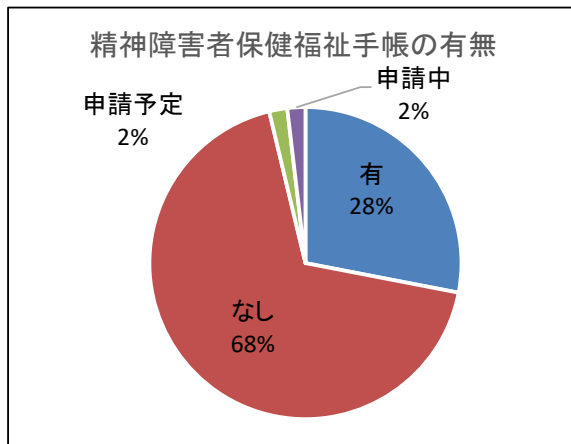
(9) 精神保健福祉手帳の有無

有 : 30名 (28%)

なし : 73名 (68%)

申請予定 : 2名 (2%)

申請中 : 2名 (2%)



(10) 障害年金の受給状況

受給中 : 24名 (22%)

申請中 : 2名 (2%)

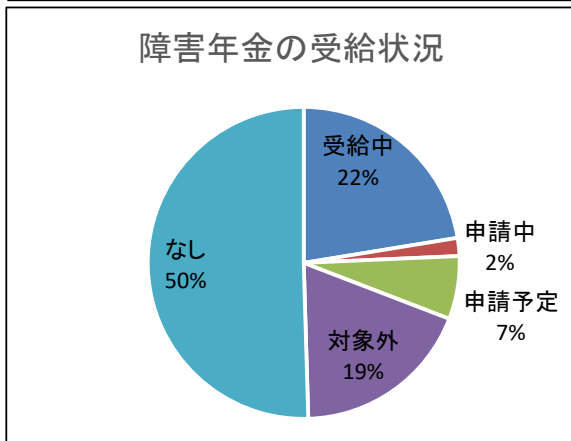
申請予定 : 7名 (7%)

対象外 : 20名 (19%)

(対象外内訳: 未成年、受給資格なし)

なし : 54名 (50%)

(なし内訳: 希望無し、老齢年金受給中)

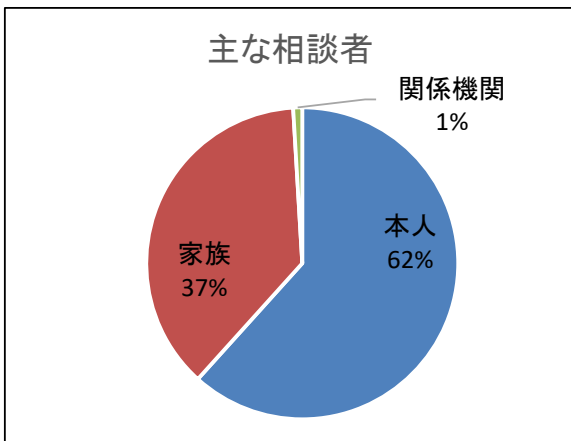


3 主な相談者

本人 : 66名 (62%)

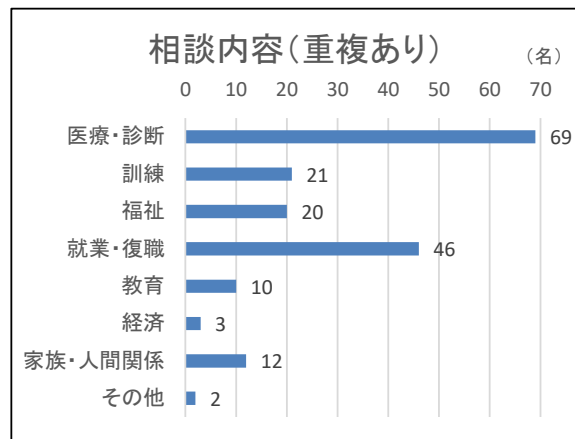
家族 : 40名 (37%)

関係機関 : 1名 (1%)



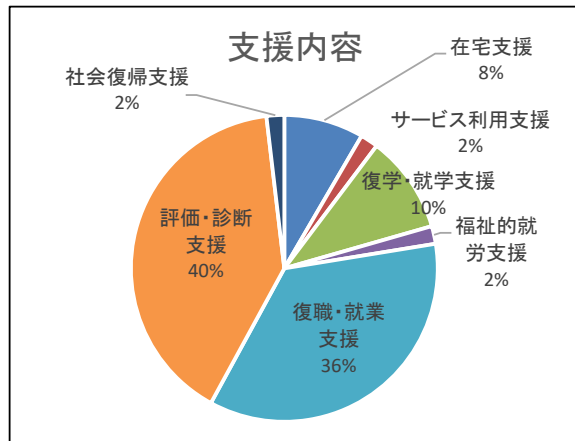
4 相談内容（重複）

医療・診断	: 69名
訓練	: 21名
福祉	: 20名
就業・復職	: 46名
教育	: 10名
経済	: 3名
家族・人間関係	: 12名
その他	: 2名



5 支援内容

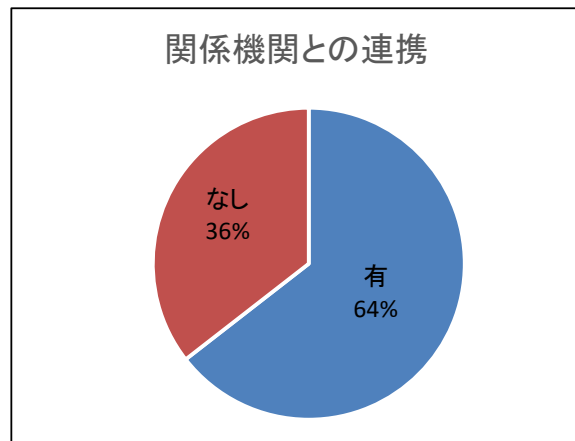
在宅支援	: 9名 (8%)
サービス利用支援	: 2名 (2%)
復学・就学支援	: 11名 (10%)
福祉的就労支援	: 2名 (2%)
復職・就業支援	: 38名 (36%)
社会復帰支援	: 2名 (2%)
評価診断支援	: 43名 (40%)



6 関係機関との連携

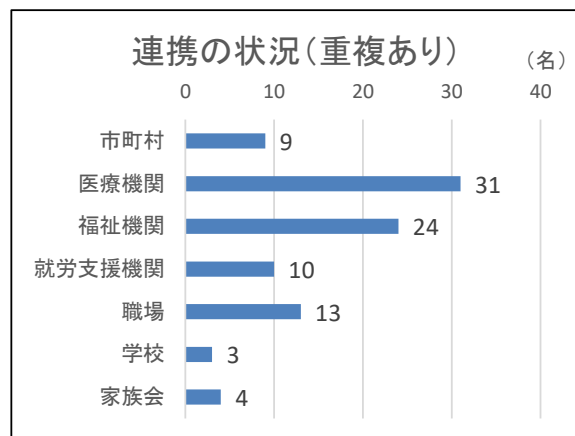
(1) 連携の有無

有	: 69名 (64%)
なし	: 38名 (36%)



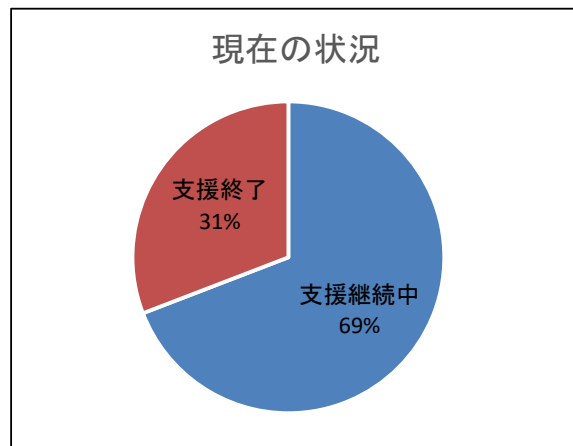
(2) 連携の状況（重複）

市町村	: 9名
医療機関	: 31名
福祉機関	: 24名
就労支援機関	: 10名
職場	: 13名
学校	: 3名
家族会	: 4名



7 現在の状況

支援継続中 : 74名 (69%)
 支援終了 : 33名 (31%)



8 支援の結果

☆新規一般就労 : 2名 小計47名
 ☆新規復職 : 9名
 復職・就労定着 : 18名
 復職・就職活動継続 : 18名

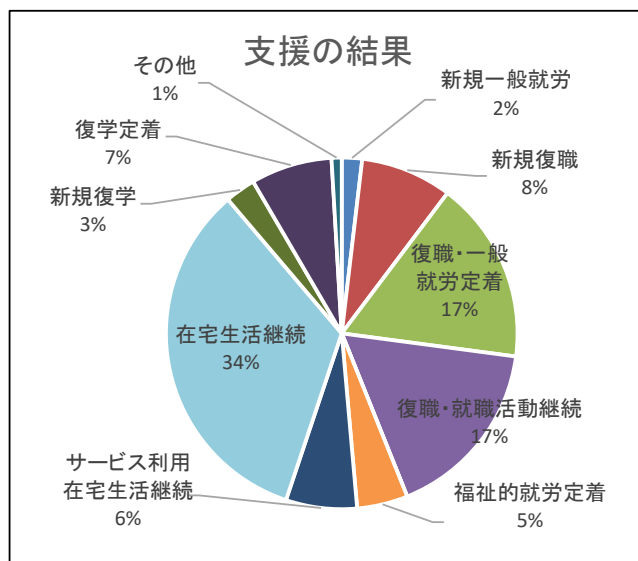
☆新規福祉的就労 : 0名 小計5名
 福祉的就労定着 : 5名

サービス利用

在宅生活継続 : 7名 小計43名
 在宅生活継続 : 36名

☆新規復学 : 3名 小計11名
 復学定着 : 8名

その他 : 1名 小計1名



9 相談支援例

障害者職業センターと連携して職場復帰を支援しているケース
 職場復帰後のフォローアップを継続しているケース
 復学後の大学生、専門学生のフォローアップを継続しているケース
 生学舎アダージョと連携のうえ、相互で訓練を行っているケース
 地域の病院からの検査及び評価依頼で関わったケース
 復職を果たしたが、社会的行動障害により退職になったケース

10 その他

自動車運転再開に関する新規の相談件数が増加してきている
 自動車運転が復職や就労の条件となっているケースも多い

令和元年度 : 6件
 令和2年度 : 20件
 令和3年度 : 26件
 令和4年度 : 6件 (7月末時点)

3 精算書

令和3年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業収支精算書

収入

単位:円

科目	予算額	精算額	差額	摘要
1 委託料収入	3,665,090	3,665,090	0	岩手県
2 自己資金	0	2,125	△ 2,125	
合計	3,665,090	3,667,215	△ 2,125	

支出

単位:円

項目	予算額	精算額	差額	摘要
1 人件費支出	1,600,000	1,708,219	△ 108,219	担当職員分人件費
2 諸謝金	438,000	382,675	55,325	委員及び講師等報償費
3 旅費交通費	135,000	30,000	105,000	
4 印刷製本費	552,000	717,041	△ 165,041	事業報告書及び支援ガイドの印刷代等
5 通信運搬費	362,000	496,090	△ 134,090	HP更新及びオンライン研修の配信経費等
6 会議費	39,900	0	39,900	
7 賃借料	205,000	0	205,000	
8 租税公課	333,190	333,190	0	消費税
合計	3,665,090	3,667,215	△ 2,125	

**令和3年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備業
「県の支援拠点機関による地域支援」収支精算書**

収入の部

単位:円

科目	予算額	精算額	差額	摘要
1 委託料収入	5,917,065	5,917,065	0	岩手県
2 自己資金	0	33,652	△ 33,652	
合計	5,917,065	5,950,717	△ 33,652	

支出の部

単位:円

項目	予算額	精算額	差額	摘要
1 人件費支出	3,400,000	3,511,588	△ 111,588	職員分人件費
2 諸謝金	50,000	9,600	40,400	研修会講師謝金
3 旅費交通費	548,000	87,200	460,800	支援コーディネーター等の研修旅費
4 印刷製本費	775,000	467,720	307,280	トートバックの作成経費等
5 通信運搬費	207,200	745,190	△ 537,990	オンライン研修の配信経費等
6 賃借料	394,000	591,504	△ 197,504	公用車及び、パソコンリース料等
7 会議費	4,950	0	4,950	
8 租税公課	537,915	537,915	0	消費税
合計	5,917,065	5,950,717	△ 33,652	

4 会議・研修会・イベント実績

● 会議

開催日	会議名	参加者数	備考
令和3年 8月5日	第1回岩手県高次脳機能障がい者 支援普及事業連絡協議会	22名	Web開催
令和3年 10月27日	圏域相談支援コーディネーター会議	14名	Web開催
令和4年 3月29日	第2回岩手県高次脳機能障がい者 支援普及事業連絡協議会	19名	Web開催

● イベント

令和3年10月2日アイーナにて開催予定のいわてリハビリテーションフォーラムにて、高次脳機能障がいの資料展示及びトートバッグの配布を行うこととしていたが、新型コロナウイルスの感染拡大によりフォーラムが中止となった。

● 研修会

日	研修会名	講師・報告者	参加者数
令和3年 10月27日	圏域相談支援コーディネーター研修会 【テーマ】 地域で一人暮らしを始めました。 ～努力と工夫と失敗を公開します～	当事者 菊地 宣博 氏	WEB 12名
		金ヶ崎町社会福祉協議会 相談支援事業所あゆみ 八重柏 知史 氏	
令和4年 3月10日 3月12日	高次脳機能障がい者支援研修会 (医師及びコメディカル対象) 【テーマ】 ～高次脳機能障害を語る～ 医師として、当事者の家族として	なやクリニック 院長・精神科医 納屋 敦夫 氏	WEB 51 アク セス
令和4年 3月17日 3月19日	高次脳機能障がい支援研修 (医療・福祉、 行政関係対象等支援者) 【テーマ】 コロナ禍での高次脳機能障害の 当事者・家族への心理的支援	栃内第二病院 リハビリテーション部副部長 公認心理士 山館 圭子 氏	WEB 56 アク セス
		いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ養成 ピアサポーター 阿部 類 氏 ピアカウンセラー 堀間 幸子 氏	

令和3年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業 圏域相談支援コーディネーター研修会開催要綱

1 目的

高次脳機能障害の多くは外見からは分かりにくく、本人も自覚していないことが多く、家族からも理解されにくい状況にあります。また、社会生活上様々な支障が生じていても、身体機能に障害がない場合は、社会的な支援がされにくい状況にあります。

本研修会はこの障がいの支援を行う専門職を対象に、その特性とその対応について理解を深めるとともに地域での支援ネットワークの推進を目的に開催します。

2 主催

公益財団法人いわてリハビリテーションセンター

3 期日

令和元年10月27日（水） 14:30～15:30

4 開催方式

Zoom を使用してのオンライン研修会

5 対象

圏域相談支援コーディネーター

6 内容

14:30 開会

14:30～15:15 研修「地域で一人暮らしを始めました。

～努力と工夫と失敗を公開します～」

講師：金ヶ崎町 菊地宣博様（当事者）

金ヶ崎町社会福祉協議会居宅介護支援事業所 八重柏知史様

15:15～15:30 質疑応答

15:30 閉会

高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）開催要綱

1 目的

「見えない障害」といわれる高次脳機能障がい者の支援に関わっている、あるいは関わる可能性のある医師及び医療従事者を対象として開催します。本事業は岩手県の委託事業として実施するものです。

2 主催

いわてリハビリテーションセンター

3 共催

岩手高次脳機能障害研究会

4 後援

岩手県医師会

5 期日

※ZOOMを使用したオンラインでの配信になります。1回目と2回目は同じ内容です。

配信1回目：令和4年3月10日（木）19：00～20：40

配信2回目：令和4年3月12日（土）13：30～15：10

6 対象

県内の脳神経外科、脳神経内科、リハビリテーション科、神経精神科、精神科、救急科等の医師及びコメディカル

7 内容

講演：「～高次脳機能障害を語る～ 医師として、当事者の家族として」

講師：なやクリニック 院長・精神科医 納谷 敦夫 先生

座長：岩手医科大学付属病院 病院長 小笠原 邦昭 先生

8 参加経費

研修参加費 無料

9 申込方法等

オンライン（ZOOM）での配信になります。

参加希望の方は裏面「申し込み方法」を確認のうえ、メールで申し込みをお願いします。

10 問い合わせ先

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当〈担当：上田・佐々木〉

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243 TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

高次脳機能障がい者支援研修会（地域の支援者対象）開催要綱

1 目的

「見えない障害」といわれる高次脳機能障がい者の支援に関わっている、あるいは関わる可能性のある地域の支援者を対象として開催します。本事業は岩手県の委託事業として実施するものです。

2 主催

いわてリハビリテーションセンター

3 期日

※ZOOMを使用したオンラインでの配信になります。1回目と2回目は同じ内容です。

配信1回目：令和4年3月17日（木）13：30～15：10

配信2回目：令和4年3月19日（土）13：30～15：10

4 対象

県内の病院、福祉施設、相談支援事業所、市町村職員等

5 日程及び内容

講演：「コロナ禍での高次脳機能障害の当事者・家族への心理的支援」

講師：栃内第二病院リハビリテーション部副部長 公認心理師 山館 圭子 氏

いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ 代表

いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ養成ピアカウンセラー 堀間 幸子 氏

いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ養成ピアサポーター 阿部 類 氏

6 参加経費

研修参加費 無料

7 申込方法等

オンライン（ZOOM）での配信になります。

参加希望の方は別紙「申し込み方法」を確認のうえ、メールで申し込みをお願いします。

8 問い合わせ先

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当〈担当：上田・佐々木〉

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243 TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

脳と身体を鍛える
自主トレプログラム
第2弾



公益財団法人
いわてリハビリテーションセンター
高次脳機能障がい者支援担当

1. カード探し

トランプを使って、読み上げられた（動画の場合は画面に表示された）カードを探すトレーニングです。初級・中級・上級と徐々に難易度が上がります。まずは初級から挑戦してみましょう。

【目的】

注意力の向上（複数の中から必要なカードを選ぶ）
記憶力の向上（読み上げられたカードを覚える）

【必要物品】

トランプ

◎記号



◎札の呼び方



① 初級

【目標】

Step 1

正しい向きにカードを並べ、間違えずに2枚のカードを取る

Step 2

バラバラの向きにカードを並べ、間違えずに2枚のカードを取る

●方法

- ① トランプを並べる。
- ② 取る札の種類を2つ読み上げてもらう。

☆読む人へ

記号と、数字または絵札を組み合わせて、カードを指定してください。

(例：ハートの4、クラブのキング)



記号

：ハート、ダイヤ、クラブ、スペード

数字または絵札

：1～10、ジャック、クイーン、キング

- ③ 読む人が「はい」と言ってから、できるだけ早く読み上げられた条件に合う2枚の札をとる。

② 中級

中級では取る札の枚数が増えます。
指示をしっかりと聞いて、条件にあった札を選びましょう。

【目標】

間違えずに指定された4枚のカードを取る

●方法

- ① トランプを並べる。
- ② 取る札の条件を2つ読み上げてもらう。

☆読む人へ

色（赤か黒）と数字または絵札を組み合わせて
2つの条件を指定してください。

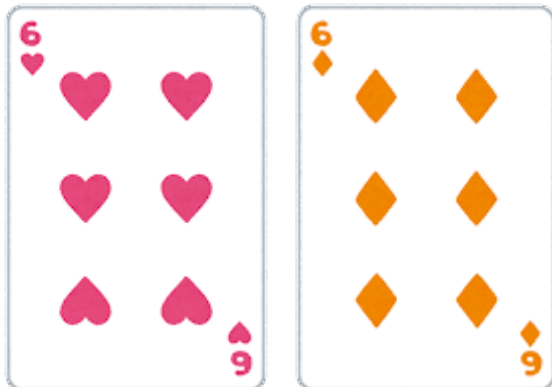
指示の例：赤の6、黒のエース

- ③ 読む人が「はい」と言ってから、できるだけ早く読み上げられた条件に合う4枚の札をとる。

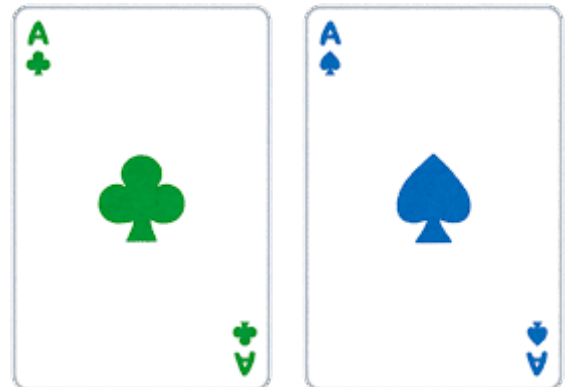


「赤の6」「黒のエース」と言われたら・・・

赤の6
↓
ハートとダイヤの6



黒のエース
↓
クラブとスペードの1



③ 上級

上級では指示された条件のカードをそのまま取るのではなく、ルールを理解した上で、頭の中で取るべきカードの色や数字を整理する必要があります。

指示をしっかりと聞き、落ち着いて考えてから条件にあった札を選びましょう。

【目標】

- ・ルールを理解し、取るべきカードを選ぶことができる
- ・間違えずに4枚のカードを取ることができる

【ルール】

- ・指示された条件の
異なる色で2を足したカードを探す

例えば・・・「赤の3」と指示された場合

赤 の 異なる色なので 黒

3 に 2を足すので 5

「黒の5」を探す

※クイーン (Q) の場合はエース (A)、キング (K) の場合は2を探してください

●方法

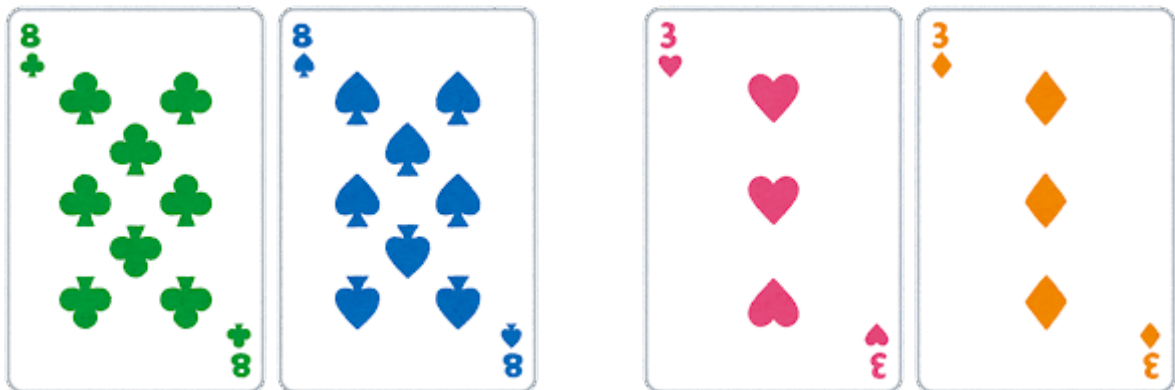
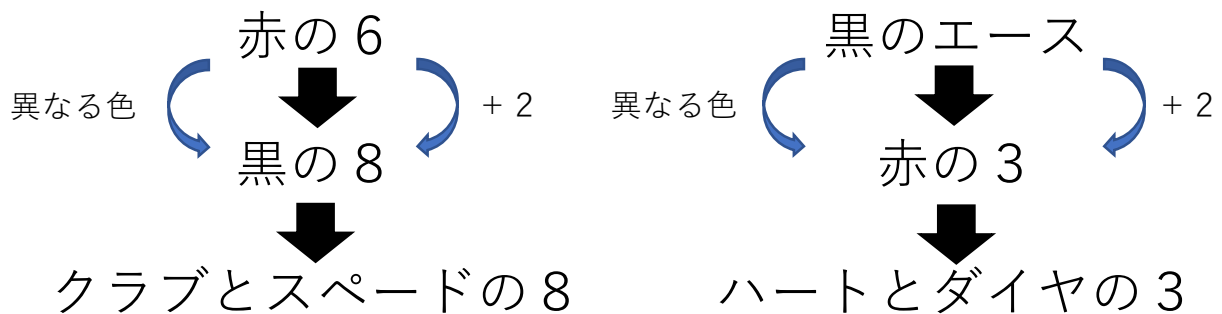
- ① トランプを並べる。
- ② 取る札の条件を2つ読み上げてもらう。

☆読む人へ

色（赤か黒）と数字または絵札を組み合わせ
2つの条件を指定してください。

指示の例：赤の6、黒のエース

- ③ 読む人が「はい」と言う前から、
異なる色で2を足したカードを、頭の中で考えて
4枚の札をとる。



2. 数字探し

バラバラに配置された数字や文字を順番に探すトレーニングです。

初級・中級・上級と徐々に難易度が上がります。まずは初級から挑戦してみましょう。

【目的】

注意機能・遂行機能の向上
(なるべく早く正しいものを見つける力)

【必要物品】

- ・大きめのふせん
- ・ペン（太めの方が見やすい）
- ・時間をはかれる物
(ストップウォッチ、スマホのタイマーなど)

あ

2

う

4

お

1

い

3

え

5

① 初級

【目標】

- Step 1 間違えずに正確に行う
- Step 2 紙を貼る範囲を広げる
- Step 3 紙に書く数字の数を増やす

●方法

- ①ふせんに1～10まで数字を書く
- ②机や床、壁などにふせんを貼る
※数字の順番通りではなく、バラバラに貼ってください
※自分の作業しやすいところに貼ってください
- ③タイマーを押してスタートする
- ④1から順番に数字を探し、ふせんをはがしていく
- ⑤すべてのふせんをはがし終わったら、タイマーを止める



② 中級

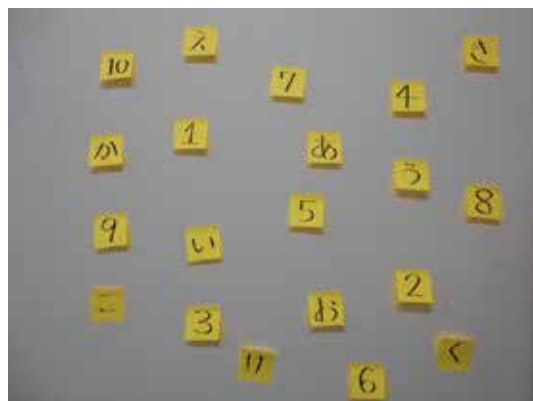
中級では数字に加えて、ひらがなを混ぜます。指示されたものをはがすので、読み上げをお願いするか、動画を見ながら取り組みましょう。

【目標】

- Step 1 間違えずに正確に行う
- Step 2 紙を貼る範囲を広げる
- Step 3 紙に書く数字、文字の数を増やす

●方法

- ①ふせんに1～10まで数字と「あ行」と「か行」のひらがなを書く
- ②机や床、壁などにふせんを貼る
 - ※数字の順番通りではなく、バラバラに貼ってください
 - ※自分の作業しやすいところに貼ってください



③タイマーを押してスタートする

④読み上げられた数字やひらがなの書かれたふせんを探し、はがしていく

☆読む人へ

数字とひらがなをランダムに読み上げてください
3秒おいてから次の文字を読んでください

⑤すべてのふせんをはがし終わったら、タイマーを止める

③ 上級

上級では、文字数やふせんの貼り方は中級と同じですが、ふせんをはがす際のルールが異なります。決められたルールを頭に入れて、できるだけ早くふせんをはがしましょう。

【目標】

- Step 1 間違えずに正確に行う
- Step 2 紙を貼る範囲を広げる
- Step 3 紙に書く数字、文字の数を増やす

【ルール】

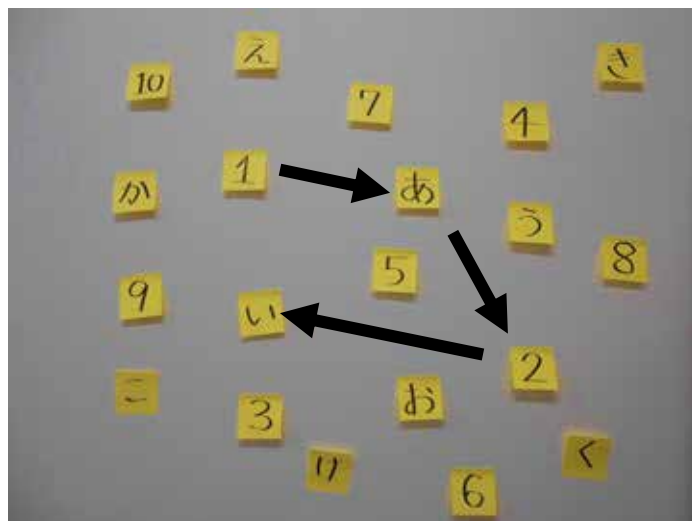
数字とひらがなを交互に、順番通りにはがしていく

1 → あ → 2 → い → 3 → う → 4 → え →
5 → お → 6 → か → 7 → き → 8 → く ...

※指示は出さないなので、自分で考えてはがしていきましょう

●方法

- ①ふせんに1～10まで数字と「あ行」と「か行」のひらがなを書く
- ②机や床、壁などにふせんを貼る
※数字の順番通りではなく、バラバラに貼ってください
※自分の作業しやすいところに貼ってください
- ③タイマーを押してスタートする
- ④数字とひらがなを交互に、順番にはがしていく
- ⑤すべてのふせんをはがし終わったら、タイマーを止める



目次

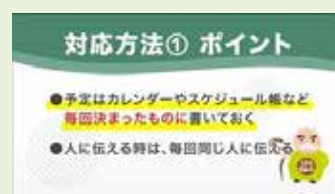
1. 研修動画：高次脳機能障がい者への対応方法について
2. 自宅でできる脳と体を鍛えるプログラム集
3. 編集後記

当センターにて、「研修動画：高次脳機能障がい者への対応方法について」と「自宅でできる脳と体を鍛えるプログラム集」を作成致しました。今回はそれらの内容や閲覧方法等についてご紹介致します。

1. 研修動画：高次脳機能障がい者への対応方法

基礎編と対応方法編があります。

基礎編では高次脳機能障がいの基礎知識についてイラストを交えて説明しています。また、対応方法編では、どうしてもよいか悩んでいる支援者に具体的な対応方法を知ってもらうため、当センターで発行した「高次脳機能障がい者支援ガイド」を基に記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害に対して実際に効果のあった具体的な対応の例やポイントを解説しています。1テーマ約3分から5分の動画ですので、ちょっとした時間を利用してご視聴いただくことができます。



閲覧方法：

いわてリハビリテーションセンターの YouTube チャンネルからも視聴することができます。

2. 自宅で出来る脳と体を鍛えるプログラム集

病院や施設でできるリハビリの時間は限られています。そのため、もっとリハビリをしたい！という方、運転再開や仕事復帰に向けてのためにもっと力を伸ばしたいという方々のために昨年度、「脳と身体を鍛えるプログラム集」を作成しました。プログラム集にはそれぞれのトレーニングの方法・目的、感想の記録ができるページがあります。

1. カード探し

Step 1 【目的】
間違えずに正確にカードを取る


Step 2
種類より早くすべてのカードを揃える

【必要物品】
絵カード
カルタなど

●目的
注意力の向上（複数の中から必要なカードを選ぶ）
記憶力の向上（読み上げられたカードを覚える）

●方法
① 絵カードを机に並べる。
② 3つの札を読み上げてもらう。
（「れいぞうこ・りんご・まくら」など）
③ できるだけ早く、読み上げられた3枚の札をとる。

●記録
- 全てのカードを取り終えた時間を記録する。
※トレーニング時間は最大3分とし、終わらない場合はその時点での枚数を数える。
- 取る札を間違えた場合は、間違えた回数も記録する。

日付	かかった時間			間違えの数	感想など		
例 1/1	3	分	4	秒	2	個	戻って間違えた
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		
/	/	分	/	秒	個		

QRコードを読み込むと、説明動画が表示されます。

閲覧方法：

- ① 冊子（いわてリハビリテーションセンターに設置）
- ② いわてリハビリテーションセンターの YouTube チャンネルから説明動画を視聴する。

※いわてリハビリテーションセンターの「岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業」ホームページからダウンロードできるように準備中です※

まだ運用をはじめたばかりです。より良い使い方ができるように実際に使った方の感想を募集しています！

3. 編集後記

今年度のメールニュースの配信がスタートしました。今年は新型コロナウイルスの影響もあり、自宅で過ごす時間が増える方が多いかと思えます。

自宅でゆっくり過ごすだけでなく、自宅内生活で体がなまらないよう、ぜひ今回ご紹介した脳とからだを鍛えるプログラム集を利用し、脳とからだを鍛えていただければ嬉しいです。

ご意見ご感想はこちらまで アドレス koujinou-shien-reha@irc.or.jp

メールニュース担当（吉田、高山、後藤、菅原、上田、佐々木）

しずくいしの風

高次脳機能障がいメールニュース

第53号 <2021年10月発行>

いわてリハビリテーションセンター
高次脳機能障がい者支援普及事業

今回は“高次脳機能障がいカルタ”の概要、遊び方、入手方法についてご紹介します。

1. “高次脳機能障がいカルタ”について

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業の一環として当事者・家族の思いを50音にのせた“高次脳機能障がいカルタ”を作成しました。

読み札の作成には「いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ」にもご協力いただき、“目に見えない障害”について、初めて知る方にも分かりやすく伝わるような内容に仕上がっています。

リハビリやレクリエーションの他、当事者・家族会、障がいについての学習等にご活用いただき、この障がいについての理解を深めていただけると幸いです。

カルタの一例



目次

1. “高次脳機能障がいカルタ”について
2. “高次脳機能障がいカルタ”の遊び方
3. “高次脳機能障がいカルタ”の入手方法について
3. 編集後記



リハ仙人 リハ Bee

カルタのパッケージにも登場している「リハ仙人」「リハ Bee」は、“いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ(就労継続支援 B 型事業所生々舎アダージョ)”で販売している“りはせんべい”を作る際に、みんなで考え、生まれたキャラクターです。皆さんのことを励まし、元気になってくれます！

2. “高次脳機能障がいカルタ”の遊び方について

高次脳機能障がいカルタでは、

- 基本的なカルタのルール
- 50音並べ替え
- 神経衰弱 など



色々な使い方ができます。

使い方の説明書もカルタと一緒に皆さまにお届けしています。また、今回のメールニュースにも添付していますので、ぜひご覧ください。

3. “高次脳機能障がいカルタ”の入手方法について

数に限りはありますが、当センターから“カルタ”を無料で配布しています(送料は申込者の負担)。

入手方法については以下のとおりです。

①「申し込みフォーム」からのお申込み
右記のQRコードまたは当センター高次脳機能障がい者支援普及事業のホームページにアクセスし「申し込みフォーム」に必要事項を入力する。



QRコードを読み込むと
申し込みフォームが
表示されます。

②FAX または郵送でのお申し込み

申し込み用紙に必要事項を記載しFAX または郵送する。

※入手方法についてのチラシも添付しています。ぜひご確認ください。

3. 編集後記

今年度第2号のメールニュースは“高次脳機能障がいカルタ”についてでした。“カルタ”を通してあらためて「目に見えない障害」に向き合う難しさや、当事者・家族にしか分からないことがたくさんあるということを感じています。

これからも高次脳機能障がいの症状の理解が広まるよう努め、地域の中でより安心して暮らせる体制づくりを当事者・家族の皆さまと一緒にできたらと考えています。

ご意見ご感想はこちらまで メールニュース担当(吉田、高山、菅原、後藤、佐々木)
アドレス koujinou-shien-reha@irc.or.jp

しずくいしの風

高次脳機能障がいメールニュース

第53号 <2022年3月発行>
いわてリハビリテーションセンター
高次脳機能障がい者支援普及事業

目次

1. 高次脳機能障害 PR 用
トートバッグの紹介
2. 研修会情報
3. 編集後記

1. 高次脳機能障害 PR 用トートバッグの紹介

高次脳機能障がいを広く知っていただくために、高次脳機能障がいの概要をイラストにし、ヘルプマークと共にトートバッグに印刷しました。



高次脳機能障がいのイラストデザインや文言などは、いわて高次脳機能障がい友の会イーハトーヴの方にもご協力いただきました。持ち歩くことで高次脳機能障がいの普及になるなんてとても素敵なことです。

ある当事者の方は、このトートバッグをポシェット型に改良し、困ったときには「自分はこれなんです」とこのイラストを相手に見せるのだそうです。「障害があることや具体的な症状を相手に知ってもらうことで、イライラせずに待っていてくれたり手を貸してくれるんですよ」と体験談を聞かせてくださいました。トートバッグがお役に立てたことを当事者さんから聞くことができ、とてもうれしく思いました。



このトートバッグが少しでも高次脳機能障がいの理解につながることを願い、担当者も持ち歩いています。今後、追加で作成し、希望者への配布を予定しております。その日まで今しばらくお待ちくださいませ。

2. 研修会情報

〔高次脳機能障がい者支援研修会のご案内〕
(医師及びコメディカル対象)

《～高次脳機能障害を語る～ 医師として、当事者の家族として》

講師：なやクリニック 院長・精神科医 納谷 敦夫 先生
座長：岩手医科大学付属病院 病院長 小笠原 邦昭 先生

期日

配信 1 回目：令和 4 年 3 月 10 日 (木) 19:00～20:40

配信 2 回目：令和 4 年 3 月 12 日 (土) 13:30～15:10

※ ZOOM を使用したオンラインでの配信になります。1 回目と 2 回目は
同じ内容です。

(地域の支援者対象)

《コロナ禍での高次脳機能障害の 当事者・家族への心理的支援》

講師：栃内第二病院リハビリテーション部副部長 公認心理士 山館 圭子氏
いわて高次脳機能障害友の会代表 堀間 幸子氏
いわて高次脳機能障害友の会代表 阿部 類氏

期日

配信 1 回目：令和 4 年 3 月 17 日 (木) 13:30～15:10

配信 2 回目：令和 4 年 3 月 19 日 (土) 13:30～15:10

※ ZOOM を使用したオンラインでの配信になります。1 回目と 2 回目は
同じ内容です。

上記の両研修とも申し込みは別添の申し込み方法を確認し、必要事項を
ご記入の上、お申し込みください。

3. 編集後記

令和 3 年度 第 3 回のメールニュースはいかがでしたでしょうか。
気が付けばもう 3 月。環境の変化が多いこの時期は体調を崩しがちです。
いつも頑張ってくれている体をたまには労わってあげたいものです。
高次脳機能障がいに関する役立つ情報を届けてまいりますので、来年度も
よろしく願い致します！

ご意見ご感想はこちらまで

メールニュース担当 (吉田、高山、菅原、後藤、村田、上田、佐々木)

アドレス koujinou-shien-reha@irc.or.jp

●ホームページ更新

高次脳機能障がいカルタ無料配布のお知らせ

当センターでは、岩手県高次脳機能障がい支援普及事業の一環として、当事者・家族の思いを50音にのせた「高次脳機能障がいカルタ」を作成いたしました。

読み札作成には、いわて高次脳機能障がい者支援の会イーハトーヴにご協力いただき、当事者・家族の皆さんの共感が得られるような内容になっています。



この度高次脳機能障がいの支援普及のため、ご希望の方に数量限定で無料配布を行うこととしました。リハビリやレクエーションの他、当事者・家族会、障がいについての学習等にご活用いただき、この障がいについての理解を深めていただけると幸いです。

配布数 700個

料金 無料

送料 申込者の負担（着払い）

- [高次脳機能障がいカルタの遊び方](#)
- [カルタ早見表](#)
- [チラシ（申し込み用紙）はこちらから](#)

≫ お申し込み方法

1. ホームページから

[申し込みフォーム](#)に必要事項をご記入の上、お申し込みください。

2. FAXまたは郵送

[申し込み用紙](#)に必要事項をご記入上、FAX または郵送でお申し込みください。

※無断複製、転売の禁止、送料負担についての同意がない場合はお申し込みいただけません。

高次脳機能障がいカルタ 申し込みフォーム

- 下記項目をすべてご記入ください。
- 注意事項をご確認の上、チェックを入れてください
- チェックがない場合はお申し込みを受け付けできません

●個人 ○団体

所属（団体の方のみ）	<input type="text"/>
部署（団体の方のみ）	<input type="text"/>
フリガナ	<input type="text"/>
氏名	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/> ※ハイフンを含めて入力してください
メールアドレス	<input type="text"/>
メールアドレス（再入力）	<input type="text"/>
送付先住所 ※岩手県外の方は都道府県からご記入ください	〒 <input type="text"/> ※ハイフンを含めて入力してください <input type="text"/>
使用目的 ※当てはまる項目全てにチェックを入れてください	<input type="checkbox"/> リハビリテーション <input type="checkbox"/> レクリエーション <input type="checkbox"/> 学習用 <input type="checkbox"/> 普及活動 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/>

▶▶ 【ご利用にあたっての注意事項】

- 先着700名へのお渡しとなります。上限に達した場合はご了承ください。
- 内容についての著作権は岩手県にあります。
- 無断複製、転売は禁止と致します。
- 送料は着払いでお申込みいただいた方のご負担となります。

全ての注意事項に同意しました

入力確認

動画コンテンツ

▶▶ 高次脳機能障がいのかきほんと対応方法

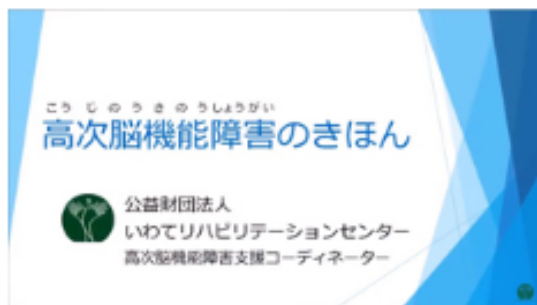
当センターでは、岩手県高次脳機能障がい支援普及事業の一環として、高次脳機能障がいの基本と対応方法に関する動画を作成致しました。

この動画は高次脳機能障がいの正しい知識を得ることができる内容になっています。また、支援者が対応方法に困った症状や状況について、実際に効果のあった具体的な対応方法の例やポイントを1テーマ約3分から5分で視聴できます。

高次脳機能障がい者との良い関わりを持つためのヒントにしていただけると幸いです。

以下の画像をクリックすると動画が視聴できます。

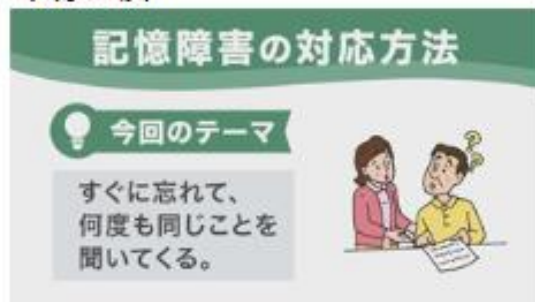
高次脳機能障がいのかきほん (5分29秒)



■ こんなときどうする？

記憶障害の対応方法

その1
すぐに忘れて何度も同じことを聞いてくる
(2分54秒)



その2
目的を忘れて、道に迷ったりする
(3分40秒)



脳と身体を鍛える自主トレプログラム

当センターでは、岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業の一環として「100円グッズを使って家庭でできる！脳と身体を鍛える自主トレプログラム」を作成致しました。

このプログラム集は、病院や施設でのリハビリにプラスして、家でもトレーニングを行い、さらに能力の向上を目指すためのツールとして、当センターのスタッフが考えました。

手軽に楽しく脳と身体を使いながら、ご家族や支援者の皆様と一緒にトレーニングに取り組んでみてください。記録を振り返り、トレーニングの成果を感じていただくと幸いです。

自主トレプログラム集



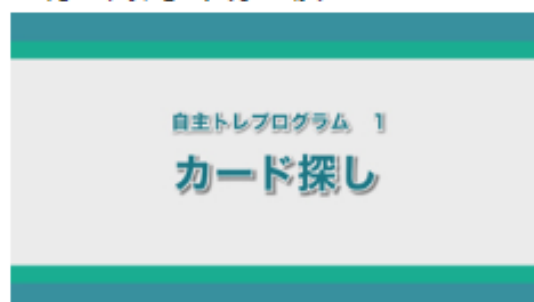
記録用紙

1.  [カード探し](#)
2.  [卓上玉入れ](#)
3.  [数字探し](#)
4.  [旗揚げゲーム](#)

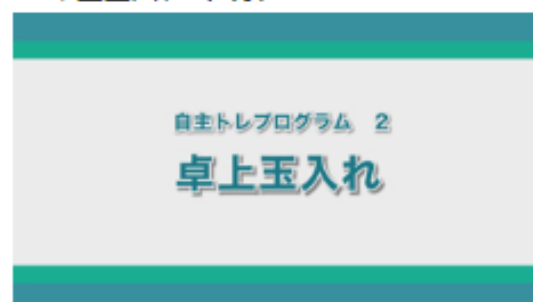
動画

以下の画像をクリックすると動画が視聴できます。

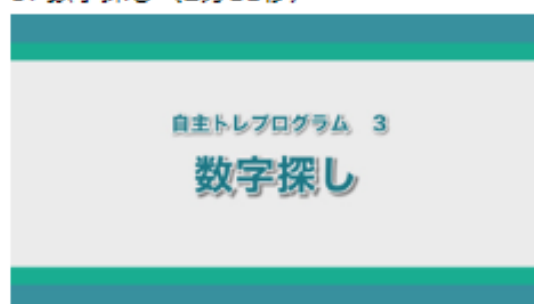
1. カード探し (2分14秒)



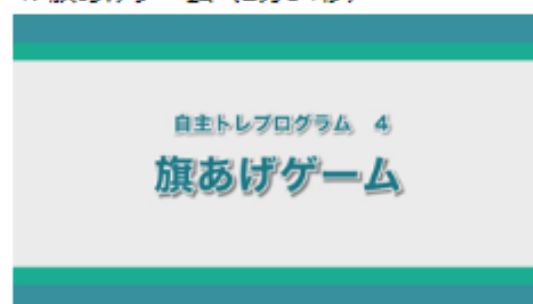
2. 卓上玉入れ (2分)



3. 数字探し (2分11秒)



4. 旗あげゲーム (2分34秒)



Ⅲ 岩手県内の支援拠点機関一覧

1. 岩手県支援拠点機関

名 称	所在地	電話番号
いわてリハビリテーションセンター	雫石町七ツ森 16-243	019-692-5800

2. 地域支援拠点機関（令和3年度）

圏域	名 称	所在地	電話番号
宮古	相談支援事業所れいんぼー	宮古市緑ヶ丘 2-3	0193-64-7878
気仙	地域活動支援センター星雲 相談室	大船渡市盛町字東町 11-12	0192-21-1305
二戸	地域生活支援センター ・カシオペア	二戸市石切所字川原 46-1	0195-23-6608
久慈	地域生活支援センター久慈	久慈市門前第1地割 151-1	0194-52-8177
釜石・ 大槌	地域活動支援センター釜石	釜石市定内町一丁目 8-10	0193-21-1156
胆江	金ヶ崎町障がい者基幹相談 支援センター	金ヶ崎町西根南羽沢 43 (金ヶ崎町福祉センター内)	0197-44-6060
	奥州市基幹相談支援センター	奥州市水沢横町 2-1 メイプル地下1階	0197-34-2160
盛岡	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ	盛岡市中野一丁目 1-26	019-652-1137
岩手 中部	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ県南支部	盛岡本部にご連絡ください	
両磐	居住地の役場障がい福祉担当課、または担当の相談支援専門員等にご相談ください。		

【編集後記】

当事業の実施にあたり、今年度も多くの方にご協力・ご尽力いただきました。皆様に感謝申し上げます。報告書をまとめながら一つの事業を思い返すと、本当に多くの方にお力を貸していただき、助けていただいたのだと感じます。

ここ数年は新型コロナウイルスの感染対策を講じながらの事業実施がスタンダードになり、私たちもすっかり Web での対応に慣れてきました。その一方で Web 対応のツールがうまく使えない人がいたり、感染状況が日々変化する中、孤独感を感じる人もいたり、まだまだコロナ禍における課題は多いと思われます。

今後もなぜ支援普及を行うのか、誰のための支援なのか、初心に立ち返り、事業を継続して参りたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(大江みづほ)

2021 年度

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業及び
高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業報告書

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター
〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森 16-243

T E L 019-692-5800

F A X 019-692-5807

E-mail koujinou-shien-reha@irc.or.jp

H P <http://www.irc.or.jp/koujinoukinoushougai/index.html>

